

「問わず語り」から見る矢作川の“けしき” —関係性を築く聴き方について—

豊田市矢作川研究所 吉橋久美子

<1. 「聞き書き」は、読む人に影響を及ぼす>

* 聞き書きとは、「聴き手」が「話し手」に話を聞いて文章化したもの。

聞き書きは文字通り「物語」である。人間は、科学的・論証的な文章より、「物語」という様式に惹かれる性質をもっている。惹かれる、というよりも、人間が何かを系統だって理解したり、行動したりするときの本質的な方法が「物語」だと言ってもよいだろう。ここでいう「物語」とは、時間軸に沿った出来事が相互に意味づけられながら語られる様式のことだ。聞き書きの中に読者は「物語」を見出し、自分の物語と照らし合わせて、それを共有することができる。聞き書きが影響を及ぼしやすいゆえんだ。—中略— 「物語」の重要性は、現在、哲学、医療、心理学、社会学などさまざまな分野で指摘されている。

『歩く、見る、聞く 人々の自然再生』宮内泰介 岩波新書 p187～

聞き書きは…「人と人をつなぐ」「世代と世代をつなぐ」「人と自然をつなぐ」

聞き書きのやり方

step1 「聞き書き」の準備

1. 話し手を探す
2. 話し手にお願いする
3. 下調べ、質問表づくり(生年月日、出身地、子ども時代、仕事内容、仕事への思いなど)
4. 持ち物を確認 録音機・カメラ・バッテリー、ノートと筆記用具

Step 2 「聞き書き」の当日

1. 初めに挨拶、自己紹介、趣旨説明を行い、録音や写真を撮ることへの了承を得る
2. 静かな落ち着いた場所で話を聞く
3. 基本的な情報を聴いてから本題に入る。
わからないことは積極的に質問する

『聞くこと・記録する事 「聞き書き」という手法』
代田七瀬・吉野奈保子著 制作：SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ事務局国連大学高等研究所 p19～「聞き書き」をしてみよう より

Step 3 「聞き書き」の書き起こしと編集

1. テープ起こし 一字一句書き起こす
2. 文章を整理する 聴き手の質問を消して話し手の言葉だけでまとめる
3. 不要と思われる内容は削除する

Step4 「聞き書き」作品の完成

1. 全体の構成を考える
2. 題名と小見出しをつける
3. 「話し手」に内容を確認してもらう

<2.語り手が生き生きと語る場づくりのために…「問わず語り」>

問わず語りは…「人と人を」「世代と世代を」「人と自然を」より深く、つなぐ。語り手の人生(物語)が自ずと立ち現れる。語りの「純度」(その人らしさ)が高まる。

私たちは何のために聴くのでしょうか。

- * 情報を得るため？
- * その「人」に触れ、関係性を築き、交流するため？

私たちは普段、何を聴いて、何を聴かないでいるのでしょうか。

- * 自分が聴きたいもの(だけ)を聴いている
- * 語り手の話を聴いているつもりが、自分の言葉(次に出す質問、語り手の話から連想される自分の過去の経験、励ましの言葉、批判の言葉などなど)でいっぱいになっている。



「心の琴線に触れることのない聴き方」「語り手から情報を一方的に“奪う”聴き方(対等ではない聴き方)」となる。語り手と聴き手が距離感近く居る感じ(「触れられる」)にならない。

ではどうすれば、語り手が距離感近く、生き生きと語ってくれるでしょうか

語りの「場」を開き、守ること…場の設定をして(時間と場所を決め)、語り手に敬意を持ち、語り手の言葉を壊さず、大切に、丁寧に“迎える”こと。→場の質が変わってくる。

例)「問わず語り」の15分

当日

- ・時間を区切り、「聴き手」に徹する。
- ・語り手の言葉を一言一句逃さず、語尾までたどる(心の中で、時に声に出して)。
- ・自分の言葉を差し挟まない(質問、励まし、反論、等々どんな言葉も)
- ・語り手の言葉を言い換えない

- ・沈黙を聴き手が破らない(沈黙は語りの一部であり、豊かなものである)

書き起こし

- ・一言一句省略せずに書き起こす
- ・編集しない、整理しない、削らない

<3.事例紹介「人に刻まれた矢作川の“けしき” (録音を聴く+レビュー)>別紙

<4.まとめ 「聞き書き」の中に「問わず語り」のスピリットを>

どのような方も、邪魔をされずに語っていけば(沈黙も含め)、通常の対話とは「質」の違う時間になり、その方の人生の、「時間」と「場所」、「そこに居た人の面影」(=「けしき」)がおのずと浮かび上がり、いくつもの物語が15分の中に重なりこんできます。「人ってすごいな」「人間って、いいなあ」、これらは問わず語りのレビューの場で多くの方と共有してきた感覚です。「聞き書き」の中に「問わず語り」的な要素を入れてみることをお勧めします。

平成 27 年 12 月 14 日 古峯水辺公園にて

語り手…大岩謹次さん

昭和 12 年(1937 年)3 月 3 日生まれ (語り当時 78 歳)

普段は「百姓やっとる。畑をね。」アユ釣りは 40 年ぐらいやっている。舟は 25 歳の時から。天然アユ調査会は平成 8 年か 9 年から (平成 8 年 (1996 年) 発足)。

聞き手…吉橋久美子 (豊田市矢作川研究所)。



()内の文字は、聞き手の言葉や相槌を示しています。

= = 内の文字は、周りの様子等です。

固有名詞をイニシャル化したものはアンダーバーで示しています

= 会話が途切れると川の音が聞こえる =

黒レコーダー B12 1分30秒から



(じゃ、いいでしょうか。十五分という時間を区切って) へえ。(あの〈笑〉、これまでずっと川と、過ごしてきた) はい(これまでのことをちょっと振り返っていただいて) ああはい。(なんかどんな、思いでこう過ごしてこられたとかですね) へえ。わし、(ふふ) わしが十の時は(はい、じゃあお願いします) はい(このまんま聞かせていただきます) アユもねえ、(はい)、よう釣れたし(んー) んー。だいたいここ、あのー、一間 あの一、水制工をでかいて(はい) ここのずーっとふちを、ドウゼンのとこまで、あの、石を入れただ(石を入れただ) ん。ずーっとこら、こういうふう^{どうぜん}に石を、ずーっと向こうまで、あの向こうの、カーブの向こうまで(カーブの向こうまでですねー) んー。百善^{どうぜん}の、カーブまで。(ドウゼン^{どうぜん}っていうのは) あっこの、なんだ、貯木場のとこまで(貯木場のとこまで) あすこまで。一間 =鳥の声・川の音= あの一、ほいで、仕事は 一間 この、石を入れる仕事は、ナ、N組 がやったんですわ(N組がやった)。ん、仕事はずーっとね。(はい)。ほの折からここへ、川へ、遊びに来て(ふふ) んー。一間 で昔は、もっと、向こうに…お、広い、川がいとっただ。(広い川がいとった)。んん。向こうは狭なっちゃったけどね。(ふーん)。=鳥の声= 昔は向こうへ、一間 =川の音= まっとう向こうが、川が広がったですわ(まっとう川が広がったですわ)。ほいでこの、なんだな、島も、小さかったわ(ふーん)。んー。だいたい、一間 何年ぐらいになるやあ。俺が中学校(中学校)。降りて、時にま

んだここで、中洲の、こ、あの、なんだ、栗石を、業者 がだいとったわ（ああ、栗石を業者が）んー（だいとったわ）んー =鳥の音が聞こえている= ほいでまあ、あれですねー。
あのー、だいぶ、この川も、変わりました、（ふーん。この川も、変わりました）んー。だいぶ低うなったですね。（ふーん…）。昔はほんとにまっと、たっかいところに水が流れとったもんでね（んー）。
=川の音、鳥の声= ほいでここ、わたくしが、ここまであんまり、舟で来なんだけんど、あの、これから下（しも） ばっかだったで。平成橋の方（平成橋の方）。んー（ふーん）。ほいで、よう子ども時分にあの、この下に流れ橋がありまして（流橋がありまして）。んー。昭和、26年 まで渡とったかな（昭和26年まで渡とった）ほいでまあ、廃止になっちゃって。んー。ほの、今いま跡がありますがね、（はい）あすこに（んー）。
=聞= わたくしもほいで、アユ釣りが好きなもんでね。あっはっは（アユ釣りが好きなもんで〈笑〉）。アユ釣りを…。だいたい、俺の、お、お父さんがアユ釣りをやりよったもんで（俺のお父さんが）はい（アユ釣りを、やりよったもんで）ほいつが、…あの、夏休みになると（んー）お父さんが「弁当持って来い」ちゅうもんで（弁当持ってこいちゅうもんで〈笑〉）あははは！（ふふ）。ほいで、弁当持ってくと「舟に乗れ！」なあんちゅってねえ（んー！）乗せてもらって（んー）。ほいで、「ちょっと釣ってみよ」なあんちゅって。あっはは…（ちょっと釣ってみよって）。その時分、僕の親父は、夏になるとそればっかだった、アユを（そればっかだった）んー。アユの、はははは…！（はは…）
商売だっただ（商売だったんですねー）。
=聞=。ほいで、あれですね、あのー、集め屋ー、
いって、リンリンリンリン、つって、（んー）あの風鈴を鳴らいて来ると（風鈴を鳴らいて…）んー、集め屋 が自転車で、ずーっと 集めて来るだ（あー！自転車で）ほいで、ほの人が、来ると、リンリンと、あのー、鈴、鈴^{すず りん}のを振ったで（んー）舟から、持ってって。ほいで、ほいで人が、ん、あのー、名古屋の市場へ持って（ああー名古屋まで）自転車でね〈笑〉。
ほの人。（自転車でね！）んー〈笑〉。（はは…）はは…ほの時分、車なんあらへんもんでね。（ああー）んー。自転車で（自転車で）んー（ふーん）。ほの時分から、わしもあの、アユ釣りを、親父にお、おそえてもらって（んー）んー。やりだいて。（ふーん。教えてもらって）楽しくてねえ。（んー）あのー、ははは…（ははは…）弁当持ってこや楽しくて（あ

はは…)(弁当持って)んー。ほいで、行って、の、「乗れ」、なんちゅって(んー、乗れ、
って)んー。ほいで、一聞一 =飛行機の音= 昭和…えーっとよんじゅう…4年に俺が卒業
しただ(あ、44年に卒業した)ん。ほいで、あたくしはあの一、あれだった。よそへ
ちょっと行っってね(よそへ)ん、(ちょっと)よそへ、旅に〈笑〉(旅に〈笑〉、)あは
は…(はは…)よそへ旅に行っって。ああ(旅に行っって)。んーあの一、一聞一 =川
の音= お、おっかあを、が、昭和、一沈黙 10 秒一 =ヘリコプターのような音がしばらく
く聞こえている= 58年か59年にも、もらって(ん)ん(はは、そうですか)一聞一 =
ヘリコプターのような音がしばらく聞こえている= (んー。58年か)ん(59年にもら
った)はい。まあほいで。あの一。よそへ行っって。ほいからまた、こっちへ帰ってきて。
ええ。一聞一 =ヘリコプターの音= ほいで、拳母町に、(はい)最初は拳母町において
(最初は拳母町において)んー。昔の拳母町。お、あの一なんだ、拳母神社のすぐ(はい)
隣において(すぐ隣に)んー(おって)ほいでそっから、仕事しとって、ほこで、K組
ちゅう仕事が、あの一、土建屋があって(んー)。そこで勤めて。(ふーん…) 一沈黙 8 秒一
=ヘリコプターの音、鳥の声= ほいで、合間に、アユを、休みになると釣っちゃあ、
んー、(はは…休みになると釣っちゃあ) 一沈黙 10 秒一 =ヘリコプターの音= そい
から、わたくしが、あの一、一聞一 なん…ねんごろだったなあ。一沈黙 7 秒一 ここの、
ほいで、支部の、役員を(うん)副支部長を、一期 やったかな(副支部長を)うん(一期
やったかな)ほいで、ここ、あの出入りして、(はい)でここで、なんだ、豪雨の時に(ん
ー)^{よんなな}47、豪雨か(^{よんなな}47、豪雨か)んー、あそこに小屋が建っってね、親売りの(ん
ー)ほいで、あの時はもう一気に水が出ちゃったもんで(ああ一気に)んー(出ちゃったも
んで)あれ矢作ダムが一気に開けちゃったもんで(あー)。ほいで、俺も下で舟、見て、こ
…こりゃいかんでこっちが流れるでと思って、見に来て(んー)。ほしたら、この、建てた
ばっかの(建てたばっかの)ハウスが、ウワーアッと流れ…はっはっは…(わー)。うんま
あそいつは、漁業組合のあれだもんで(ああー。建てたばっかのが)うん(流されて)うん。
ほれからまあずーっと。 一聞一 =川の音= ダイカナダモ、あの一、一聞一。すー魚
を、釣っちゃあ、遊んじゃあ、仕事の合間にね。一聞一(ふーん…)ほりゃあ、平成橋の下^{しも}

で、平成橋…はなかったもんでねえ。(はい)(平成橋はなかったもんで)。昔、うんと、こ、
ここに、い、ひとり、砂利、採る人 がおって(砂利採る人がおって) んー、ほいから、ん
ー。もう一人、流れ橋の所に、N、わいつつあー いうのかな(N) んー、ほの人 が、砂利
を採って(んー) んー。ほいから、えーっと、平井梶^{III}で、I、砂利 がととったかな。
(I砂利) んー。I砂利が。一^間一(ふーん) ほいであのー、ほれから、下が、あのーモク
ネン^{IV}ちゅうとこでね。(モクネンちゅうとこ) んー。O砂利がほこで(O砂利が) うん。舟
でね、あの、こうやって、貝をとるみたいにして(貝をとるみたいにして) にして、舟に積
んで。で(はい) ほうやって陸へ持って行って。うん。やとる、(ふーん…) 覚えがあり
ます、ええ。(へー。舟に積んで) んー、(陸へ持って行った)。ほいつを、ほいであの、昔
はダンプあーへんもんで、あの、箱ぼてのダンプ^Vで(箱ぼてのダンプで) んん、箱ぼての、
あの、(箱ぼてのダンプで) んん、あいつを持ってきて積んじゃあ(んー) 一車いくら、っ
ちゃあで、みんなが、やとりよっただ。んー(ふーん。やとりよった)。ほいで、…高橋^{たかばし}
の、とこへもあったなあ(ふーん。高橋のとこへもあった)。うん。あれは、ん、ナカネ、
なんちったなあ、ほの人がやとっただ(ふーん)。豊田^{とよだ}の駅前の(豊田の駅前の) うん。
で俺が、覚えのある時はあのー、ここへ、K重機、ん、K組の(はい) 息子 が、砂利をや
っぱりふ、採り行とっただここへ(んー。やっぱり) 舟でねえ(んー) こうやって(んー)
舟にいっぱいにしちゃあほこでまた、よそへも、あの、陸へ持って行って、(んー) ほいで
山にして(山にして)。ん。ほうやって、みんな、やとって。わしもほいで、合間に、遊
び行とっちゃあ、ははは(遊び行っちゃあ〈笑〉) 遊び行っちゃあ、ほいで、よう知と
る人だったもんでね、ほりゃあ(んー) 遊び行って、ほいで、行っちゃあ。高橋のとこも、
あのー。木の橋が架かっってね(んー! 木の橋が) んー。(架かっって) んー。あの、
今の、下にね、木の橋が架かっった。一沈黙 10 秒一 =川の音= ほいで、わしも、あ
のー、いろいろ、遊んできたもんで。はっはっはは! (いろいろ遊んできたもんで〈笑〉)
(ふーん)。ほいで、わしも、あの、鉄砲も打とったし(あ、鉄砲も打とった)、はい(ふ
ーん) 鉄砲、10年ぐらい打とったかなあ(10年ぐらい) んん。鉄砲もアユも、はっは
っは…(鉄砲もアユも〈笑〉)。や、やって(はい)。ほいから息子も大きくなったもんで(ん

一) まあこりゃあ…どっちかせな、ん、鉄砲もまあどえりゃあ厳しなってきたもんで。(あ
あーどえりゃあ厳しくなってきた…)。鉄砲ほいでまあ、やめて、ほいから、まあ子どもも
大きくなったで、=息を吸う音= アユ釣りをやるかと思って、アユ釣り真剣に、(アユ釣り
を真剣に) ああ、夏になるとほとんどやっ、(んー) んー。やって。ほりゃあ、昔つ、はよ
く釣れたですよ (ああ、昔はよく釣れたですよ)。あの、平成橋…ができる前だなあ。昭和
と、平成橋、ああ平成と、うん、(昭和と平成と、んー)。なる、ちょっと前だわ (なるちょ
っと前、ふーん)。昼間、昼から出てって、舟をね、えーっと、六艘ぐらいこう並べて (六
艘ぐらい並べて) ええ (ふーん) ほいでそこで =15分のアラームが鳴る=

i 流橋は渡し舟の代わりに昭和26年にできて、数回流され、その都度復旧を遂げたが昭和34年の伊勢湾台風で流れてからは復旧は行われていない。

ii 東海豪雨のことであった (後日、本人に確認)

iii 地名。水管橋の上の中洲のすぐ上流。

iv 地名。水管橋の下。籠川合流点より上流。

v ダンプではなく、トラックだったとのこと。また、「箱ぼて」ではなく「ぼて箱」だろう。